

# 農林水産政策審議会 第1回農林水産企画部会 議事要旨

I 開催日時 令和6年8月27日(火) 14:00~16:30

II 場所 兵庫県庁3号館7階参与員室

## III 出席者

### 1 委員

相田 欽司	仮屋漁業協同組合 代表理事組合長
井藤 絵美	チームしんすけ農場
岩城 紀子	Smile Circle 株式会社 代表取締役
大山 憲二	神戸大学大学院農学研究科 教授
辻村 英之	京都大学大学院農学研究科 教授
都藤 元彦	株式会社都藤商店 専務取締役
中塚 雅也	神戸大学大学院農学研究科 教授
中山 晋吾	兵庫県農業経営士会 会長
船越 照平	一般社団法人兵庫県食品産業協会 会長
堀 豊	吉備国際大学農学部 教授

### 2 県

呉田農林水産部次長、菅村農林水産部次長  
ほか県農林水産部、環境部職員

## IV 議事次第

### 1 開会

### 2 あいさつ

### 3 議事

- (1) 現行ビジョン施策の実施状況報告・評価・検証
- (2) 主な課題
- (3) アンケート・現地調査内容

「資料2」により説明

〔 各委員から意見聴取（別紙「主な意見」参照） 〕

### 4 その他

### 5 閉会

## 主な意見

### 1 現行ビジョンの評価

**委員** 農林水産業に若い人が参入できる環境が必要ではないか。そのためには650万円程度の安定した所得が必要ではないか。机上の数値ではなく、どうやったら儲かる農林水産業になるのかを検討する必要がある。水産関係は陸上養殖、栽培漁業等にも参入し業績を上げているケースもある。今日は各専門の皆様からお話を聞かせていただけたと思うが、これからは所得が保障されている農林水産業を目指していくべき。現地調査では特に若い人たちとの対話を進めることにより議論したい。

**委員** 指標で評価検証されているのは一部だが、どういうものを評価・検証の対象として挙げられたのか。また、それら対象と、課題として挙げられたものの関係も教えてほしい。その回答を踏まえて後ほど意見を述べたい。

**事務局** 現ビジョン策定後2年分しか実績が出ていないため全体検証は今時点ではできないが、R5～6年度の状況も見ながら総括的な検証を行う。それを前提として、今回は、第1回総会での意見を踏まえ、指標の中で代表的なものをピックアップさせていただいた。これ以外にも次のビジョン策定に向けて丁寧に評価・点検すべき項目があれば追加させていただきたい。

**委員** 目標に対して実績が大きく届いていないものを検証して課題として挙げ、解決に導いていく必要があるのではないか。例えば、「担い手への農地集積」。元々の目標が過大すぎるものは、目標から再検討したらよいと思う。

**事務局** ご指摘についてそのとおりに思っている。「担い手への農地集積」は2/3の農地を担い手に集積する目標だが達成していない。今は「地域計画」として誰に農地を担っていただくか議論が進んでいるので、その辺の状況も見ながら評価・検証すべきと感じている。もう1点、兵庫県産米の輸出量は輸出した場合と国内出荷した場合で農家手取りに差がなく、輸出メリットが減って特定生産者が出荷をやめたため県全体の数値が悪くなっているが、現時点では評価が難しいので今回の評価から外している。

**委員** 兵庫県産米の輸出は県が政策的に関わっているのか。指標により、政策の関わり合いの大きいもの、小さいものがあるのではないか。

**委員** 他県産だが、台湾向けにコメの輸出をしたことがある。一般のコメでは価格が高すぎて合わないので、輸出専門の品種、産地で対応した。

**事務局** 県産米の輸出については、ミラノ国際博など、最初のきっかけ作りは県も関わっている。その後は農協独自でやっている。海外では無農薬米が求められているが、国内での需要もあるので生産が追いついておらず、輸出量が減っている。また、生産調整対策の一環として、海外輸出への応援メニューがあったが、他産地の米と混じってしまうので優位性が発揮できないという事情があった。今後、輸出に関しては誰に対してどんなものを輸出していくのか考え、単発で終わらないように取り組まないといけないと感じている。

**委員** 直売所に関して売り場のブラッシュアップという記載があったが、コロナ禍後、直売所の顧客は減っている。スーパーの方が野菜は高いが、直売所は高速代などの交

通費がかかることが足かせとなり、売上が落ちている。売り場をブラッシュアップすることも大事だが、三田や丹波などの野菜をトラックで集荷して運ぶ方法を考えた方がいい。現に JA 兵庫六甲は御影に出店しており、パスカル三田や六甲のめぐみから商品を運搬しているが、売上が良い。芦屋・西宮まで商品を運べれば消費は伸びる。売り場より物流が大切だと思う。

**委員** 流通は大変重要な課題。生産者が直売所に持って行くまでの物流も大事だと思う。

**委員** 日本全体、兵庫県全体の人口も減っている中、各作物の生産量を増やしていくという目標自体が難しいのではないかと感じている。その上で増やしていくとなると他県や輸入品との競合になっていくと思う。生乳などは輸出も難しいし、近隣消費前提の酪農業の指標が増産でいいのかと懸念している。生産量を増やす指標もいいが、中身に重きを置いていく考えもあるのではないか。アニマルウェルフェアは避けて通れない時代になっていると思う。どれくらい現場で求められているのか分からないし、軽々しく言うべきではないかもしれないが、例えばアニマルウェルフェアに取り組んでいる頭数とか、そういう指標の切り口があってもいいと感じた。

**委員** 今までは量を重視してきたのと思うしそれも大事だと思うが、今後は循環型農業など質の部分も入れていかないといけないと思った。

**委員** 昨年度はしらす、ノリが日本一になったが、九州・有明海のノリが不作だったことが原因。しらすも昨年6月は日本全国で不漁で、兵庫県産しらすを他産地の業者がわざわざ買いに来て、単価も良かった。売上がよかったのはいいが、対岸の火事ではない。今年は大阪湾のしらすが不漁で、イカナゴも漁ができなかった。一方、鯛はすごく増えている。前回は申し上げたが、食物ピラミッドの頂点にいるような種をどんどん放流するのは考え直さないといけないのでは。他の委員さんから栽培漁業の話も出たが、大阪湾ではずっと前から取り組んだ結果、鯛が増えすぎた。一度立ち止まってみなさんで評価して、栽培漁業に取り組めたら。もう1点、うちの港でもウミウが非常に増えており、網をあげていると群がってくる。水産業でも、野鳥の駆除をすべき時がきていると思った。そういったビジョンも取り入れてほしい。

**委員** 栽培漁業の中でもなまこやクマエビなど環境改善をする働きのある種や、殆どいなくなってしまった二枚貝などは力を入れるべきと思う。水産関係の指標は良い指標になっているが、かなりアバウトな評価になっているように思うので、もう少し細かく検討すべき。主な課題の「海業の振興」については、水産庁でも特に力を入れているので、海業のどの部分に力を入れるのか、もう少し丁寧な課題設定をした方がいいと思う。

**委員** 我々の事業については「住宅関係」がついて回るが、今後の人口減・住宅減の中で、住宅の指標は変えていった方がいいと思う。戦略的に非建築の分野での活用がどれくらいになったか、もう少し前を出してもいいのでは。製紙チップやバイオマス、大工場での木材利用、SDGsの観点でのウッドチェンジなど。住宅における材木は100年住宅という言葉があるとおり、炭素ストックとしてはそこにあり続けるが、将来的な人口減少及び着工戸数減少の流れの中では次の素材生産を呼び込み辛い。今後は合板や梱包材等を工場等での産業資材として利用し、いわゆる「消え物」にフォーカスして、流通の幅を広げて円滑に回るような流れを促進すべき。もう1点、宮崎や高知、新潟では丸太や原木などの輸出が増えていると聞いている。兵庫県でも整備がなされて、原木、木材の輸出で外貨を稼ぐということができないか。川下の木材利用

により、川上の方にもお金が回る環境にしたい。就業者の離職は所得の問題もあるのではないか。

**委員** 地産地消、農業では言うが林業では聞かない。地元のホームセンターで地元の材木を買えたら良い。

**委員** 基本法の改正に対応する形で課題を出されているものもある。基本計画が出てこない具体的な記載が難しいかもしれないが、適正価格に関して課題としてもっと強調すべきではないか。もう1点、環境創造型農業に関する課題もあるが、有機農業という言葉が隠れてしまっているのもう少し書いた方がいいのでは。また、既に予算化して実践いただいているCSA手法についても、理解増進に繋がるものなので、食料消費のところにいれていただきたい。

**委員** 今年は経験したことのない夏の暑さ。日中ハウスにも入れないし、作物も作れない状態。10年後のビジョンを作るには、こんなことでスーパーから米がなくなることがないようにしないといけないと感じる。我々は外国人実習生を受け入れているが、将来的には外国人の力を借りないと農業はできないのではないかと思う。姫路の大手受入会社は、日本全国に2～3千人派遣しているようで、夢前に自前の精米所を建てるほどである。日本の人口は減少するが、外国人実習生、インバウンド需要は増えていくと思うので、足腰の強い農業をしないといけないと思っている。

**委員** 新規就農者を増やそうという話はよく聞くが、新規就農者がどれくらい継続できているか？5年目までは手厚い保護があるが、5年過ぎて経年劣化したものを改修するにも、屋根を張り替えるだけで100万円以上かかる。規模拡大すると人件費も増加する。地域の先輩農家は辞めていき、我々だけでは地域を支えられないので新しい農家にも入ってほしいが、不安定な状況。新規就農希望者セミナーで講師をするが、精神的な部分ではたくさん良いところを話せるものの、儲かるとはとても言えない。この先やっていけるかどうか不安との戦い。農業は魅力的だが、持続できる方向をなんとか一緒に考えていただきたい。自分たちがもっと魅力を発信できたらと思っている。

**委員** 具体的にこんなサポートがあればいいなというものは？

**委員** 償却資産にかかる税金の制度が難しくて苦慮している。今農業をやっていくのに精一杯の中で、どうしようという感じ。農業は暑い中の作業で過酷。どうやったら人が来てくれるかという状況。新しいことをやろうとしてもお金がかかる。農薬、肥料も価格高騰しているが、野菜の価格は上がらない。儲かると言えないのが苦しい。

**委員** 漁家も同じ。船も資材も高騰していて支出が増えている。うちの組合は水揚げがある方だが、淡路島の中でも苦しいところもある。魚の単価でカバーしたいが、資材高騰で吹き飛んでしまう。ひとりあたりの所得の指標もここに入れてもいいのではないかと感じた。所得が650万円との話もでたが、そういうものも見えてくるのではないか。

**委員** 所得は把握するのが難しいかもしれないが、重要な指標だと思う。JAなどで会計的なサポートがあるかもしれないが、抜け落ちているのもあるかもしれない。農業に詳しい税理士さんもない地域があったりする。そういった整備が必要かもしれない。

**事務局** 会計のサポートという意味では、経営力強化を目指す経営体からの相談に応じ、税理士や農業会計に詳しい専門家を派遣する制度が(公社)ひょうご農林機構にある。

そういったニーズがあっても手を上げるのが難しい場合もあると思うので、こちらから寄り添う対応も必要かと思う。農業の場合、税法に弱いというのは業界全体の課題だと思う。税法に対するサポートは重要な視点だと思う。

**委員** 先ほど適正価格について言及したが、食料安全保障の中に書いていただいていた。適正価格は食料安全保障とは別のものだと思っていたので、よく読んでいなかった。フランスのエガリム法のようなものが導入されるのであれば、市場メカニズムとは異質の大きな変革になるので、食料安全保障とは分けて強調してはどうか。

**事務局** 国の整理では、基本法の食料安全保障の中に適正価格が入っているが、それとは別に法律を作ろうとしている。我々のビジョンの中では食料・消費の中で、消費者理解、継続購買という課題を置いている。消費者が買えるかどうかという問題はあるかもしれないが、今後どうやって進めていくか、次回にはそういったことをお示しできたらいいと考えている。

**委員** 食料価格があげってきているが、今が逆に適正価格だと思う。国民が理解してくれたら良いと思っている。

**委員** 再生産価格が保証されていない。豊作の場合は単価が下がり、不作の時は単価が上がる。なぜ再生産価格が保証できないのか。価格設定・市場流通方式の見直しも必要であると思う。

## 2 現地調査・アンケートについて

**委員** 水産業だけスマート化という言葉が入っていないので、入れたらいいのでは。他の委員からも話題が出てきたが、水生生物による被害対策も入れるべきでは。

**委員** 分野ごとに設問が違うが、それぞれの分野の関係団体にアンケートをするのか。市町村はどの分野に回答するのか。

**事務局** 市町村は全分野に回答いただきたい。水産はないところもあるが、書けるところを回答していただく。

**委員** それぞれの担当者によって偏りが出てくるかもしれないので、数値の扱いには注意して検討した方がいいかもしれない。

**委員** 前回の審議会でも現地調査に行かせていただいて、とてもいい経験だった。委員のところに行くこともご検討いただけたら。

**委員** 漁協にアンケート出すことになっているか。

**事務局** アンケートは各漁協に出す。現地調査先に漁協を候補としてあげているが、委員のところへ行ってはどうか、というご意見についてはどうか。

**委員** 現地調査は歓迎する。県の方はよく来ていただいているので逆にうちでなくてもいいかもしれないが、委員のみなさまにも色々理解してもらえと思うので、ご検討いただけたら。

**委員** 目的は我々がどういった施策を検討すべきか知ることだと思う。4段階でなく2段階で十分で、できている場合は成功要因を聞く、できていない場合は達成のために何が必要か聞いてはどうか。評価の理由というよりも、成功、あるいは失敗の要因を聞く方がいいのでは、という意見である。

**委員** アンケートの「県民への木材の良さの普及啓発が進んでいる」というのは定番項目として過去幾度となく繰り返され省みられなかった漠然とした質問なので、もう少

し踏み込んだ聞き方ができないか。例えば木材の効能等に踏み込み、暮らしにおける影響の情報等を啓発できているかどうかなど。収益性の向上がどれくらい進んでいるか、補助金に頼らずできているか、10年後もできそうか、などの質問を踏み込んで聞いて欲しい。また、川上から川下まで流通の連携や情報の共有ができているかの質問も加えて欲しい。

現地調査先については、姫路にある企業がいま県内で一番熱く林業を語れる方なので、ぜひ入れて欲しい。

**委員** 林業のアンケート配布先8ヶ所はどういうところか。

**事務局** 各森林組合や協議会に依頼する。

**委員** 組合としてどこまで回答できるのか、少し整理した上で質問してほしい。

**委員** 農業の13団体はどちらにアンケートするのか。

**事務局** 地域の農業団体とJA。地域団体は農業経営士会、農協青壮年部会など。

**事務局** 兵庫県農業会議、兵庫県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会兵庫県本部、兵庫県土地改良事業団体連合会、兵庫県農業経営士会、兵庫県法人協会、兵庫県青年農業士会、兵庫県稲作経営者会議、兵庫県女性農漁業士会、アグリプリンセスの会、兵庫県農協青壮年部協議会、集落営農ネットワーク協議会、各農業協同組合を配布先と考えている。

**委員** 現地調査先候補を資本力のある法人を選定されているが、現実的に中小規模経営の農家の中でもうまく経営を回して実績をあげている農家も候補先として検討していただきたい。アンケートも幅広くとって現状を知っていただきたい。

**委員** アンケートは団体に聞くので、団体を通じた意見集約でしかないと感じる。個別の意見に関しては、ターゲットとするところをピックアップして意見をまとめてもいいのではないかと思う。家族経営とか小規模農業経営にも目を配らせる選定を。

**委員** 農地集積が大事だというアンケートの結果が多かったとしても、実際には日当たりが悪くてコメがあまりとれないような農地もある。悪いところを誰が守るか。地域としてはどんな農地でも守らないといけない。アンケートしても法律上のしぼりがありできないこともあるので、なんのためのアンケートかとも思う。

**委員** アンケート結果は我々が検討するときの参考意見にするのかと思う。課題というのと、政策として欲しいものは違うと思う。そこは分けたらいいと思うが、県レベルで推進すべきものがどれか聞いても良いと思う。県として何をしてほしいか、直接的に聞いてみてもいいのでは。県と市町との役割分担があると思うので。質問が増えてしまうと思うので、参考程度に検討いただけたら。

**委員** オーガニックのものを作りたいがJAS有機は取得が困難、費用が高額というご意見もあるので、それはアンケートに入れてはどうかと思う。同じく「県産を活用したいと考えている」という設問があるのであれば、「オーガニックを活用したいと考えている」という設問もあっていいのでは。他の国は給食にオーガニックを使っているが、日本は遅れている。

**委員** 食料や農村のことが少ないと感じている。ビジョンが産業寄りになっているが、基本法でも食料や農村にもう一度目配せしましょう、ということだったと思うので、次のビジョンに向けてはそのあたりも検討しては。

アンケートにおいても農村、暮らしの部分がないと感じる。

全体として、食料・食品も弱く、課題整理も少し抽象的。食料の問題と地域の問題、

両方目配せしながらやっていけたら。

農業については、家族経営を再評価しようという動きもある。小規模経営体にも目配せできたら。

量だけでなく質の視点も重要。アニマルウェルフェアの件についても、世界的な潮流もあるが、日本人的な、兵庫県のには動物とどう向き合っていくのか、発信しても良いのではと思う。

流通はすごく課題になる。労働力不足から現在と同じように、日本中に流通させることが難しくなってくるなかで、動脈だけでなく静脈側の流通、循環型の流通を考えることも必要だと思う。畜産の振興という点においても、そうした地域循環の中で畜産も必要ですよ、というアプローチ、議論をしていく必要もあるのでは。

農業経営をどう続けるのかというのは、綺麗な話ばかりしていくと抜けていく。農業経営を具体的にサポートするというのが大事であることも改めて実感した。

次回以降もビジョンに向けて、具体的な議論をしていきたいのでよろしくお願いしたい。